



風景印 (下)

もつと有効活用を

前回紹介した「風景印」、消印よりも見ただけで八代の鶴を連想させられる。もつと風景印を有効的に活用することを考えるべきだろう。

先日「くだま発案で結核に苦しむ子どもたちの療養所を建設するた



我が家の白の蛸袋

庭の草抜きをしていると

くだみも白い花を咲かすが、私はこの草を抜き取るのでちよつと気の毒な気もする。この草、薬草として今も愛用している人もいる。これらにまじつて三つ葉も生えており、朝夕の味噌汁を豊かな香り

で楽しませてくれる。先ほどの蛸袋だが、先日訪れた山口市のカルメル会に

咲く蛸袋は薄むらさき。名前といい、咲く時期も蛸が飛ぶ時期に花をつけ、日本人の感情が光る。こうした風景から、自然の恵みの中に偉大な神をかいま

見る。私はアメリカの園芸家ターシャが好きで、沢山の彼女の本があるが、我が家の約3万倍を超える庭園を想像する。その土地の広さではなく、どこで咲いても花の小さな二つの中に神の偉大さを感じさせられる。こんなことを書きながら遠くデンマークの結核で苦しむ子どもたちのことを思い浮かべた。

郵便は



八代の鶴の風景印

もつと有効活用する工夫があつてもよいのではないか。大阪にある国立文楽劇場記念の風景印のある切手が娘から送られて来た。こと

言わんばかりに紫陽花(あるように、我が家の30坪たらずの庭にも沢山の草花が咲いている。芍薬(しゃくやく)に変わつて、今は蛸袋が咲いている。そして次は俺の番だ

国立文楽劇場



FIRST DAY OF ISSUE



デンマークの1942年のクリスマスシール

クリスマスシール